

第16回  
広域連携医療ネットワークシステム研究会（GCM16）

## 平成から令和 医療現場の潮流

令和元年6月15日

特定非営利活動法人 全国在宅医療推進協会  
事務局長 田中 正彦

### 主な内容

- ① 数十年の議論を経て、ついに解禁  
「オンライン診療」
- ② 病院の在り方・役割と「介護医療院」の登場
- ③ 次世代医療基盤法と個人情報

## ① ついに解禁 オンライン診療の動向

現在、遠隔の画像診断（病気か否か、病名の確定etc.）は医療現場に定着し、有効に機能している

遠隔の画像・映像を用いた診療行為そのものも、僻地医療や離島での応用など、数十年來議論されてきた

ただし

「医師法」第20条の分厚い壁  
（患者との直接対面診療の義務）

2015年8月10日付 厚生労働省事務通達  
医師法第20条等における「診察」とは、問診、視診、触診、聴診その他手段の如何を問わないが、現代医学から見て、疾病に対して一応の診断を下し得る程度のものをいう。したがって、**直接の対面診療による場合と同等ではないにしてもこれに代替し得る程度の患者の心身の状況に関する有用な情報が得られる場合には、遠隔診療を行うことは直ちに医師法第20条等に抵触するものではない。**

医師法第20条に対し徐々に風穴

2018年4月  
近年の情報通信機器技術の飛躍的進展、医師の働きかた改革、患者サイドのニーズ等の背景を総合的に考慮

「オンライン診療」の解禁（保険適用）

### オンライン診療の条件

- ・ 6か月以上の通院歴（病態を把握している患者）
- ・ 3か月に1回は通院の義務
- ・ 保険適用された疾患に限定（ほぼ生活習慣病） etc.

### 医師陣の反応は？

現在、実施表明を行った医師は全国で約10%

実施している施設も、極めて限定された患者層  
 実際、運用率は1%程度との説もあり

患者との直接対面・接触を重んじる伝統的な医師の哲学

新たな通信システムが登場してもニーズは低いのでは

## ② 病院の在り方・役割 介護医療院の登場

医療法	20床以上を有する施設	「病院」
	19床以下	「診療所」

一般病床（肺炎、外傷など、完治・退院が原則）

精神病床

感染症病床

結核病床 以上 医療保険のみ

療養病床 医療療養病床 （2025年に向けた「地域医療  
介護療養病床 構想」の最重要課題）

目標 在宅医療を70%に  
（療養病床▲13万床）

在宅ではない場合

特別養護老人ホーム（特養）、介護保険老人施設（老健）  
 ・・・・主に介護保険主体  
 民間では、介護付き有料老人ホーム、サービス付き高齢者  
 向け住宅etc.

### 新たに「介護医療院」の登場

医療サービス＋介護サービス＋住まいの提供

中小規模個人病院が概ね移行する見込み

課題 経営問題 特色化・差別化

オンライン見舞い、ふるさとVRなど  
 新規アイデア浮上

### ③ 次世代医療基盤法と個人情報

次世代医療基盤法（通称 医療ビッグデータ法）  
 昨年5月正式に施行開始

2017年 個人情報保護法改正により医療情報が「要配慮情報」  
 大規模調査研究のハードルが上がった状況への対案的性格

- ① 政府認定の事業者による匿名化加工
- ② 初診時における患者の同意

研究データとして患者の医療情報の蓄積および使用  
 が可能

Key Word AIホスピタル

## 現在の医療ビッグデータ

### 電子カルテからの「レセプト情報」中心 (診療報酬請求のためのデータ)

例

急性気管支炎(肺炎疑い)

胸部X線撮影、血液検査(白血球、CRP等)、投薬

**肝心の結果(転帰)が不明**

The screenshot shows the website of the National Institutes of Biomedical Innovation, Health and Nutrition (NIBIOHN). The header includes the NIBIOHN logo and the text "国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 National Institutes of Biomedical Innovation, Health and Nutrition". Navigation links include "お問い合わせ", "アクセス", "リンク", "サイトマップ", and "ENGLISH". A search bar is also present.

The main navigation menu includes "研究所紹介", "研究と活動", "情報公開", "調達情報", and "採用情報". The current page is titled "開発振興部ホーム > 戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) > 採択課題".

The page content features the SIP logo and the title "戦略的イノベーション創造プログラム Cross-ministerial Strategic Innovation Promotion Program 「AIホスピタルによる高度診断・治療システム」". A highlighted section reads: "戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) 第2期 「AI (人工知能) ホスピタルによる高度診断・治療システム」 採択課題 (14件)".

The text below states: "戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) 第2期 「AI (人工知能) ホスピタルによる高度診断・治療システム」に応募いただきました研究開発課題に関して評価委員会の答申に基づき、下記の通り採択いたしました。" and "再公募を行っておりましたサブテーマEにつきまして、評価委員会の答申に基づき、下記の通り採択いたしました。"

再公募を行ってありましたサブテーマEにつきまして、評価委員会の答申に基づき、下記の通り採択いたしました。

- ・研究責任者：江原 悠介
- ・研究開発課題名：「AIホスピタルの研究開発に係る知財管理等、システムの一般普及のための技術標準化・Open/Close戦略、官民学連携のためのマッチング等に関する対応」プロジェクト（「医療情報活用基盤」を通じた、AIホスピタル関連技術展開のための基盤創出にむけて）
- ・研究開発機関：PwCあらた有限責任監査法人\*

更新日：2018年12月5日

採択課題（14件）

サブテーマ	研究責任者	研究開発課題名 (管理番号)	研究開発機関
A	本多 周一	セキュリティの高い医療情報データベースの構築とそれらを利用した医療有用情報の抽出、解析技術等の開発プロジェクト (SIPAIH18A01)	株式会社情報通信総合研究所* 株式会社NTTデータ 経営研究所 ヒュービットジェノミクス株式会社 PwCあらた有限責任監査法人
B	宇賀神 敦	AIを用いた医療現場向けスマートコミュニケーション技術の開発 (SIPAIH18B01)	株式会社日立製作所*

## 今後の予測

### ① 中高年の日常バイタルデータの収集

的確な高齢化社会対策の立案

アジア諸国にノウハウを提供 日本リーダーシップ発揮

賛同・協力を頂ける患者さんの確保 ⇒ 窓口としてNPOなど  
非営利団体の参画に期待

### ② 画像スクリーニングはAIの仕事？

次世代m-LEDディスプレイなどの登場

未知の画像への対応は、やはりDeep Learningか

最後に

何をやるにも

良い意味で「倫理審査委員会」と懇意に

国としても、医療費・介護費の抑制、人材不足対策の観点から、ICTやセンサー、ロボットの活用を急務と考えている

**ものづくりの重要性 益々増大**  
**医学・工学・化学など横断チーム**

ご清聴ありがとうございました